

埋却候補地の試掘を伴う実働型の防疫演習

西部家畜保健衛生所 うえてとしき 植手俊樹 かわもとたかゆき 川本隆之

1 はじめに

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生農場では、迅速に殺処分や焼埋却を実施する必要があるが、全国的に埋却地の掘削時に、地下水などの影響により、埋却地の変更を余儀なくされた事例が報告されている。

このため、管内の大規模農場の埋却候補地について、HPAI 発生時の防疫措置の実効性を確認するため、試掘を伴う実働型の防疫演習を実施した。

2 防疫演習の概要

防疫演習は、管内で成鶏 40 万羽以上を飼養する A 農場で実施した。農家及び防疫措置実施時の関係者が参加し、重機による試掘で地下水の有無などを確認しながら、家畜保健衛生所（家保）がシミュレーションした計画図を基に、重機の動線、埋却候補地のレイアウトなどを検討した。

なお、試掘は、県と防疫協定を締結している団体の会員に委託し、埋却候補地内 4 か所で、縦 5m×横 5m×深さ 4m を掘削した（図 1）。



図 1 試掘溝の配置図

3 検討事項及び結果

(1) 掘削の実効性

埋却候補地は斜面を盛土で均した土地で、バックホウで容易に掘削できた。

①の試掘溝で少量の雨水が染み出たが、時間が経過しても水が溜まらなかったため、深さ 4m まで掘削可能と判断した（図 2）。②～④の試掘溝では、

湧水は確認されず、いずれも深さ 4m まで掘削可能と判断した。



図 2 ①の試掘溝で観察された水

(2) 家保が作成した計画図からの変更点

演習を通じて、事前に家保が作成した計画図（図 3）を修正し、後日、新たな計画図（図 4）を演習参加者に共有した。修正点はア～カのとおり。



図 3 演習前に家保が作成した計画図



図4 演習を通じて修正した計画図

ア 公道からの入口の鉄板敷

公道から埋却候補地へ通じる通路の入口には側溝があり、蓋が乗っているが、重機の往来により破損する可能性があるため、鉄板を敷く。

イ 現場詰所の場所変更

公道から埋却候補地へ通じる通路に現場詰所を設置する予定だったが、車両のすれ違いスペースを確保するため、現場詰所を公道北側の公園駐車場に設置する。

ウ 既設の消毒装置の撤去

埋却候補地への通路上に、自動消毒装置が設置されているが、大型車両と接触して破損する可能性が高いため、埋却作業開始前に撤去する。

エ 埋却溝のレイアウト変更及び残土置場の変更

埋却溝や斜面の崩落を防ぐため、埋却溝は公道側の斜面から6mは離し、埋却溝の間は8m離す。

埋却溝を3本から2本に減らして間隔を確保するが、埋却溝が長くなるため、残土置場を埋却候補地の南にある空地に変更する。

オ 埋却作業の順序

埋却溝2本分の残土置場を確保できないため、北側の埋却溝から掘削を開始し、埋却物を投入して埋め戻してから、南側の埋却溝を掘削する。

カ 樹木の伐採

埋却候補地の南側には樹木が生えているが、修正した埋却溝のレイアウトでは、南側の埋却溝と樹木が重なるため、掘削作業前に樹木は伐根する。

4 まとめ

演習の結果、検討事項に留意した上で、今回の埋却候補地では埋却可能と判

断した。試掘を伴う実働型の防疫演習では、関係者から具体的な意見が得られ、家保が作成したシミュレーションが大幅に改善され、実効性が高まった。

埋却作業において、重機の動線や残土処理などを事前に想定しておく必要性を再認識した。今回得られた知見を、他農場の事例に対しても活かしていく。